

テールアルメ壁工法における鉛直目地材について

1. 鉛直目地の目的

鉛直目地とは、構造物同士が取り合う場合、その構造物に損傷等の悪影響を及ぼさないように使用するものである。

2. 鉛直目地部における延長調整について

補強土(テールアルメ)壁工法において、構造物間との取り合い等で延長が確定している場合、スキンパネルを加工(異型スキンの使用)して延長を合わせる場合がある。

以下、延長調整について述べる。

1) 異型スキンの製作について

コンクリート2次製品は、一般的にセンチ単位の区切りで製作を行っている。同様に異型スキンの製作についても、センチ単位での製作としている。

2) 施工における延長調整について

テールアルメ壁は、コンクリートスキン相互の空積みであるため、ある程度の延長誤差が発生する可能性がある。このような場合は、目地部で延長調整を行う。

3) 設計における延長調整について

測点間がミリ単位で計画されている場合、センチ単位で管理している製品を使用するため、延長が合わない場合がある。そこで、図面上では鉛直目地においてミリ単位での表記は行うものの、実際は2)で述べたように現地で調整することとしている。

3. 設計上における鉛直目地材の数量算出について

上記の通り、延長調整は目地部で行うことを通例としている。このことにより、目地部は不確定要素が多分に含まれているため、数量算出においては厚さ20mmの目地材を一般的とらえ、20mmを単位数量として算出を行っている。